



# 七夕の星をみよう!

たなばたでんせつ ちゅうごく

七夕伝説は中国で生まれた。

天帝(天で一番偉い神様)が、自分の娘である織女と夫の牽牛の間を

天の川で隔て、一年に一度、7月7日だけ会えるようにした

という悲しい恋物語である。

こと座のベガが織女・織姫として、わし座のアルタイルが牽牛・彦星

として日本では親しまれている。

実際には星が移動してみえることはない。2つの星の間は14.4光年ほど

離れている。つまり、光のスピード(1秒で地球を7.5周する速さ)で

移動してもも14.4年かかる距離にあるのだ。

<探し方>

ベガ、アルタイルにはくちょう座のデネブが加わり、3つの一等星が

夏の大きな三角形を構成している。この時期は東の空に、ケーキのような

形の大きな三角形を見つけることができる。

3つの星で最も明るいベガ → ベガからより離れているアルタイル →

残りの1つがデネブ ……とたどると、星を見分けやすいだろう。

## ☆七夕あれこれ

日本の七夕伝説は、奈良時代に中国から伝わった「織女、牽牛

伝説」と日本古来の「棚機神事」が結びついて生まれた。

棚機津女…神さまのために特別な布を織り、神にお供えして

人々の罪や穢れをはらう巫女のこと

七夕は節句として定められた日だが、「たなばた」と読むのが

一般的である。

【五節句】(右の表を参照)

季節の節目。1桁の奇数月の、日にちが重なる日をえらんだ

短冊に願いごとを書いて笹の葉につるすのが、江戸時代に庶民の

間ではやった。短冊は陰陽五行説をもとにした5色を用いる。

笹の葉は魔除けの意味もある。子どもが健やかに、真っすぐ

成長するようにとの思いから使われるようになった。

旧暦は月の満ち欠けを基準として定められたカレンダーである。

旧暦の7月7日(※)は夜半前には月が沈み、織姫も彦星も、間にか

かかる天の川も最もみやすい時期だったのだろう。

七夕伝説はその時の夜空の星の輝きに魅せられた人が作った物語だ。



7月7日20時30分頃の空 (Stellnavigator/Astro Arts)

## 次回の観覧会(予定)

【8月12日(水)・8月13日(木)】  
20:20~23:30  
(最終受付23:00)

テーマ  
「ペルセウス座流星群」

日付	漢名	和名
1/7	じんじつ 人日	七草の節句 ※1/1は一年の始まり 特別なので節句に 指定できなかった
3/3	じょうし 上巳	桃の節句・ひなまつり
5/5	たんご 端午	菖蒲の節句
7/7	しちせき 七夕	笹の節句・棚機
9/9	ちようよう 重陽	菊の節句

## 【陰陽五行説】

中国古来の自然哲学の思想。全てのものは  
五つの要素に分類される、という考え

五つの要素：木・火・土・金・水  
対応する色：青・赤・黄・白・紫(黒)

※旧暦の七夕は近年「伝統的七夕」と  
よばれている。今年は8月19日(水)